

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																								
大原和服専門学園	昭和53年3月28日	大原敏敬	〒631-0078 奈良県奈良市富雄元町1丁目13-41 (電話) 0742-47-1111																																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																								
学校法人大原学園	昭和38年12月25日	大原敏敬	〒631-0078 奈良県奈良市富雄元町1丁目13-41 (電話) 0742-47-1111																																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																																							
服飾・家政	家政専門課程	着物染織科	平成22年文部科学省認定	—																																																							
学科の目的	着物染織科は、本学園の建学の精神と教育理念に基づき、多様化する社会のニーズに対応でき、柔軟で創造力のある即戦力としての心技体を兼ね備えた全国で活躍することができる染織のプロの養成を目的としている。																																																										
認定年月日	平成30年2月27日																																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																																				
3年	昼間	4778時間	642時間	66時間	4974時間	0時間	0時間																																																				
生徒総定員	生徒実員	留學生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																																						
90人	14人	0人	1人	13人	14人																																																						
学期制度	■前学期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 毎年度各科目を4段階で評価し、各科目の総合点数により評価する。また、技術評価として技術取得点数による評価と実技試験の成果で評価している。																																																							
長期休み	■春季休業:3月29日～4月5日 ■夏季休業:8月1日～8月20日 ■冬季休業:12月28日～1月9日		卒業・進級条件	全授業日数の2/3以上の出席で、かつ毎年度各科目を4段階で評価し、全ての科目が可上であること。また、実技については実習点数が基準を上回っていることが必要。また実技試験の結果、染織工芸実習の企業臨地実習の履修、各学年で取得すべき資格取得等で認定。																																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が定期的に個人面談を行い、現況確認を行っている。また、問題がある学生については、保護者とも連絡をとり相談をしながら対応をしている。		課外活動	■課外活動の種類 和祭実行委員会・若年技能者人材育成支援等事業・伝統文化親子体験教室事業など ■サークル活動: 無																																																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 新庄亀綾織伝承協会、(有)児島、木村染匠(株)、(株)カナエキモハーツ ■就職指導内容 キャリア教育により就職進路の決めるまでの流れを指導し、最終学年の学生には、個別進路指導により、就職担当者及び担任、講師と連携しながら学生の希望とスキル等を加味して進路決定まですすめている。学生の希望が学園の求人票になり場合でも学園のネットワークを利用し求人への掘り起こしも行っている。 ■卒業生数 4人 ■就職希望者数 4人 ■就職者数 4人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 100% ■その他 0%		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和裁技術検定 初級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>和裁技術検定 中級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>准級服飾教員</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>3級きもの講師</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>2級きもの講師</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>1級きもの講師</td> <td>③</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>きもの文化検定5級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>きもの文化検定4級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>きもの文化検定3級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>学校華道初級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	和裁技術検定 初級	③	3人	3人	和裁技術検定 中級	③	3人	3人	准級服飾教員	③	3人	3人	3級きもの講師	③	4人	4人	2級きもの講師	③	4人	4人	1級きもの講師	③	-	-	きもの文化検定5級	③	4人	4人	きもの文化検定4級	③	4人	4人	きもの文化検定3級	③	4人	4人	色彩検定3級	③	1人	1人	色彩検定2級	③	4人	4人	学校華道初級	③	4人	4人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																																								
和裁技術検定 初級	③	3人	3人																																																								
和裁技術検定 中級	③	3人	3人																																																								
准級服飾教員	③	3人	3人																																																								
3級きもの講師	③	4人	4人																																																								
2級きもの講師	③	4人	4人																																																								
1級きもの講師	③	-	-																																																								
きもの文化検定5級	③	4人	4人																																																								
きもの文化検定4級	③	4人	4人																																																								
きもの文化検定3級	③	4人	4人																																																								
色彩検定3級	③	1人	1人																																																								
色彩検定2級	③	4人	4人																																																								
学校華道初級	③	4人	4人																																																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者12名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者12名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 中退者はいない		中退率	0%																																																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (1)家庭の経済的な要件による授業料減額支援制度 全学科対象で生活保護世帯やそれに準じる経済状況の家庭に対し、所定の手続きを行い認定されれば、授業料の1/3もしくは半額を免除する。 (2)特待生制度 和裁研究科・着物染織科の学生を対象に ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																																										
当該学科のホームページURL	https://www.ohhara.ac.jp/																																																										

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)

■自由記述欄
 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
 ●第12回・第13回現代手織物クラフト公募展 入選
 ●2020染織意匠図案コンペ金賞・銀賞

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

多様化、専門高度化する現代社会において、しっかりとした基礎力に支えられた高度な専門力、柔軟な応用力を兼ね備えた即戦力の人材を育成することが求められている。そのため、当学園としては、企業と連携した専門的で実践的な職業教育を行い、産学協同システムの提携先企業、就職先企業や企業臨地実習の受け入れ先企業等の多様な企業の意見などを踏まえ、企業等の役員、有識者、実務者等からなる教育課程編成委員会に助言を求め、時代に即応して当学園の教育水準と質の向上を図り、継続的かつ組織的に教育課程の編成に取り組むことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

当学園教職員により構成された教育課程検討委員会において予め取りまとめた教育課程の編成、教育内容、教育方法の改善に関わる意見案をもとに、教育課程編成委員会において企業等委員等の実践的かつ専門的な立場から審議を行い、その意見をもとに、教育課程検討委員会の構成員を含めた学園長及び学務部教職員で構成された運営委員会において、中期的な教育課程の編成及び教育内容、教育方法の改善を盛り込んだ次年度授業計画を審議の上策定し、組織的に継続的な改善に取り組む。また、運営委員会で策定された授業計画において学則に記載している授業科目名・時間数等に変更が生じる場合は、学則変更の手続きを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
大原敏敬	大原和服専門学園 学園長	令和2年4月1日～令和4年3	
小西 彰	奈良県職業能力開発協会 専務理事	令和2年4月1日～令和4年3	①
舞鶴 政之	㈱西陣まいづる 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和4年3	③
上田 哲也	㈱榎儀 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和4年3	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(基本年2回 10月、2月※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み変則でおこなった)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年4月4日(欠席委員は書面による意見の徴取)

第2回 令和3年3月29日(欠席委員は書面による意見の徴取)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学びの期間に企業との交流がますます重要であるとの提言より、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、校外学習には企業訪問を組み込み実施するようにしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

和装関連業界がより専門的に細分化していく中で、当学園で学んでいる着物製作技術が実社会でどのように応用され活用されているかを学ぶとともに、企業における実践的な技術教育の機会を通して着物製作技術の知識と技術の幅を広げ、専門技術者としての職業観・勤労観を育むために企業等と連携した実務実習をおこなう。

受け入れ先企業等と継続した教育連携を可能とするため、少人数制できめの細やかな実地指導ができるようにする。

また、和装関連業界の後継者育成という観点から全国の和装関連企業と提携することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

予め学園担当者と企業の指導員が打ち合わせを行い、各企業の染織等技術の応用的な活用状況を把握し、受入可能期間、受入可能人数、事故等の学生保険対応、守秘義務及びSNS対応等受入前の事前学生指導内容、実習内容、学修成果の評価指標と評価基準の設定、評価方法などについて定める。実習期間中は、学生の実習状況等を把握できるように情報共有を適時おこなう。実習終了時には、企業の指導員が臨地実習評価をし、学生よりレポート提出終了後学園担当者が成績評価を行う。学園担当者と今後の受け入れ内容の改善を図れるように打ち合わせを行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
染織工芸実習 染織実習Ⅲ(染色実習)	染色及び織物を選択し、多様で専門的な染色技術と表現方法を学び、総合的で実践的な制作実習に取り組む。	(株)デジナ、富宏染工(株)、吉岡染色、芦田金彩工芸(株)、(株)三才
染織工芸実習 染織実習Ⅲ(織物実習)	染色及び織物を選択し、多様で専門的な織物技術と表現方法を学び、総合的で実践的な制作実習に取り組む。	加地金襴(株)、泉工業(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 多様化複雑化する社会状況や受入学生の変化に対応して、時代に即した職業人材を育成していくためには、教員が教育や専攻分野における実務に関する知識、技術、技能の習得と向上を継続的に図れるよう組織的、計画的に研修・研究の機会を提供し、教員が実践的かつ専門的で効果的な職業教育をおこなうための資質や能力の向上を図り、学園の教育力の向上に取り組んでいく必要がある。そのため、教員研修の基本方針と教員研修に係る規程を定め、それに則り組織的に教員研修をおこない教員の資質向上を図るものとする。当学園の教員研修は以下5つの方法により、職層に応じて求められる資質・能力に基づき対象者を決め研修を実施する。
 (1) 新任教員研修、(2) 自己啓発研修、(3) 学園内実務研修、(4) 専門職能研修、(5) その他の研修
 また、継続的、効果的に教員研修をおこなうためには、学園と関連する業界団体、職能団体、教育団体等の行う研修を効果的に計画に盛り込み実施することを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「技術講習会(留めを極める)実習講座」(連携企業等: 大阪和服裁縫協同組合)
 期間: 令和2年11月28日(土) 対象: 研究員以上の教員
 内容: 和裁における留めの技術を学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「部下・後輩従業員を指導するためのスキルを学ぶ(ティーチング・コーチング)」(連携企業等: ポリテクセンター奈良)
 期間: 令和3年3月2日(火) 対象: 教員
 内容: 効果的な技術習得を図るためのティーチング・コーチングについて。最近の若年層の傾向

研修名「ノウハウの継承と人材育成の進め方」(連携企業等: ポリテクセンター奈良)
 期間: 令和3年3月18日(木) 対象: 教員
 内容: 職業能力の体系化の仕方や継承する職業能力の整理、人材育成の進め方、教育訓練の計画方法

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「文化息づく奈良で学ぶ価値」(連携企業等: 奈良県専修学校各種学校連合会)
 期間: 令和3年8月27日(金) 対象: 教職員
 内容: 少子化がすすむ奈良県において今後の地域における専修学校・各種学校の役割を考える

研修名「第50回全国和裁研修会」(連携企業等: 一般社団法人日本和裁士会)
 期間: 令和3年10月31日(日) 対象: 希望する教職員
 内容: 世界の民族衣装～きものルーツを訪ねて・和裁3冠達成の指導者と学生について

研修名「おひきぶりの縫製について」(連携企業等: 奈良県和裁技能士会)
 期間: 令和3年1～2月 対象: 教職員
 内容: 舞妓・芸妓のおひきぶりの縫製について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アサーティブコミュニケーション」(連携企業等: ポリテクセンター奈良)
 期間: 令和3年8月6日(金) 対象: 教職員
 内容: 相互尊重のコミュニケーションによる学びやすい学習環境の有り方を学ぶ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学園教職員で構成する自己点検自己評価委員会の取りまとめた自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を行うことで、当学園に關係する学校関係者評価委員の多角的な意見をふまえて、より質の高い効果的な学校運営の改善に関する具体案をまとめ、それをもとに組織的かつ継続的な学園運営の改善活動を行うことを目指すとともに、学園の關係者に当学園の情報を開示し共有することで学園に対する理解と協力を促すこともあわせて目指していく必要がある。その結果、当学園の社会での認知を上げるとともに当学園で学ぶ学生に対する教育の質を組織的かつ継続的な向上を実現し、学園の社会的な役割を高めていくことを学校関係者評価の基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動、多様な学生の受け入れ、産業界との連携
(4) 学修成果	就職進路
(5) 学生支援	学生支援、卒業生支援・連携
(6) 教育環境	施設・設備
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守、自己評価・学校関係者評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	地域にひらかれた学校づくり
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

卒業生とのつながりを強化することが必要との提言より、令和2年度より卒業生組織・園友会のlineグループを作成した。また、寮での共同生活に関する意見もあり、寮長・副寮長制から班長制に変え、後輩の指導を手分けしておこないかつ、課題を相談できる体制に変更をした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月8日現在

名前	所属	任期	種別
竹村 嘉基	奈良県職業能力開発協会 専務理事	令和3年4月1日～令和5年3月末日(2年)	専門家等委員
西村 典久	美芸学園高等専修学校 校長	令和3年4月1日～令和5年3月末日(2年)	高校等評価委員
大森 貴之	(一社)日本和裁士会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月末日(2年)	企業等委員
松本 美波	波衣庵 代表	令和3年4月1日～令和5年3月末日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.ohhara.ac.jp/about/disclosure.php>

公表時期: 令和2年11月25日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学園は、専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドラインを踏まえて、企業等の学校関係者が、学園の実情に即したより効果的で実践的な職業教育を推進し学園の教育内容の質の向上を図ることを目指すために、企業等の関係者が、学園情報等を適時知ることができるように提供し、双方の情報共有を効果的に進めることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園概要、
(2) 各学科等の教育	学科紹介カリキュラム概要
(3) 教職員	教職員数、教員名簿
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協同システム、就職進路実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	きもの教育実習、企業臨地実習、古都着物校外学習
(6) 学生の生活支援	学生寮、学校給食
(7) 学生納付金・修学支援	入学金、授業料、教育充実費、大原奨学制度
(8) 学校の財務	決算報告書、財産目録
(9) 学校評価	自己点検自己評価報告書・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(学園広報資料)

URL : <http://www.ohhara.ac.jp/>

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)														
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
							講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択												
1	○		染織工芸実習 染織実習Ⅰ (染色理論)	染色基礎理論を学ぶ	1通	##	○			○			○	
2	○		染織工芸実習 染織実習Ⅰ (染色実習)	道具の扱い、染料の扱い等基礎作業ができるようになり、ロウケツ染、絞り染、手描き友禅染の糊糸目ができるようになる	1通	##			○	○			○	
3	○		染織工芸実習 染織実習Ⅱ (染色理論)	染色専門理論を学ぶ	2通	##	○			○			○	
4	○		染織工芸実習 染織実習Ⅱ (染色実習)	手描き友禅染の下絵から彩色までの作業ができるようになり、帯・着物の制作ができるようになる	2通	##			○	○			○	
5		○	染織工芸実習 染織実習Ⅲ (染色理論)	染色及び織物を選択し、染色応用理論もしくは織物応用理論を学ぶ	3通	50	○			○			○	
6		○	染織工芸実習 染織実習Ⅲ (染色実習) (織物実習)	染色及び織物を選択し、多様で専門的な染色技術と表現方法を学び、総合的で実践的な制作実習に取り組む	3通	##			○	○	○	○	○	○
7	○		染織工芸実習 織物実習Ⅰ (織物理論)	織物基礎理論を学ぶ	1通	##	○			○			○	
8	○		染織工芸実習 織物実習Ⅰ (織物実習)	織物の組織等織の基礎知識を学び、道具・機の扱い、糸染め等基礎作業ができるようになり、高機で帯が織れるようになる。	1通	##			○	○			○	
9	○		染織工芸実習 織物実習Ⅱ (織物理論)	織物専門理論を学ぶ	2通	##	○			○			○	
10	○		染織工芸実習 織物実習Ⅱ (織物実習)	織組織設計から高機での製織まで、帯、着尺の課題製作を通して、着物・帯の制作ができるようになる。	2通	##			○	○			○	
11	○		染織工芸実習 デッサン	ものを正確に描くための基礎を身につける。	1通	##			○	○	○		○	
12	○		染織工芸実習 文様の描き方	模写実習で運筆の基礎を身につけ、日本の文様の描き方の基礎を学ぶ。	1通	##			○	○			○	

13	○	染織工芸実習 デッサン	ものを正確に描くための基礎を身につける。	1 通	##				○	○	○			○
14	○	染織工芸実習 文様の描き方	模写実習で運筆の基礎を身につけ、日本の文様の描き方の基礎を学ぶ。	1 通	##				○	○				○
15	○	染織工芸実習 きものデザインⅠ	絵羽浴衣のデザイン実習を通して、絵羽着物の柄配置の基礎を学ぶ。	1 後	26		△		○	○				○
16	○	染織工芸実習 きものデザインⅡ	着物のひな形制作を通して、基本的な着物の種類の柄配置を理解し、描けるようになる。	2 通	##		△		○	○				○
17	○	染織工芸実習 きものデザインⅢ	様々な帯・着尺・雑貨などのデザイン課題に取り組み、独立実習と連動させ、デザインの応用的な展開力を学ぶ。	3 通	##		△		○	○				○
18	○	独立実習 プロダクト ビジネス実習	専攻した染織技術のビジネスでの展開を学ぶため、商品企画から広報・販売まで一連の流れを学ぶ。	3 通	57		△		○	○	○			○
19	○	独立実習 デジタル メディア演習	販売活動に活用できる各種デジタルメディアの種類・使用方法を学ぶ	3 通	27			○		○				○
20	○	きもの専門 実習 和裁Ⅰ	和裁の基本動作ができるようになり、浴衣の製作実習で着物の基本構造を理解できるようになる。	1 通	##		△		○	○			○	
合計				33科目				4760単位時間						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	あること。また、実技については実習点数が基準を上回っていることが必要。ま	1学年の学期区分
1学期の授業期間		19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。